

伏覽

司海局

海軍大臣

四水第 六七 號

參謀長

三月九

參謀

海軍大臣

明治三十四年三月九日

第四艦隊司令大宮鈺次郎

第四艦隊

海軍大臣

一第甲九號艇 進 達 損傷始末書

但艇長海軍大尉山本節从提出

右進達

一通 (終)

海軍

0889

明治四十一年二月廿六日

第四十九號艇長山本節次

第四十九號艇觸接損傷始末書

四十一年二月廿六日午前八時四十五分長浦出港水雷發射、
目的ヲ以テ根岸灣ニ至リ小柴・鼻ト夏島西端ト一線上本
牧ノ鼻ヲ北東ニ東ニ見ル点ニ標的ヲ置キ其正東六百米
突ニ航路浮標ヲ碇置レ午前十時過キ第一回發射ヲ施
行セントレ標的ニ南約七百米突ヨリ危険旗ヲ半揚レ
後部發射官ノ發射用意ヲナシ原速十二哩ヨリ以テ正東

0890

三向ヒ更ニ危険旗ヲ全揚シ針路ヲ正北轉セントス際
 本牧鼻ノ方位ヨリ北東ノ風ヲ約右舷正横ニ受ケテ西行
 スル帆船三隻九ガ我ヲ射航路ヲ横過セントスルモノノ如キヲ
 認メ汽笛ヲ連吹シテ其注意ヲ求メツ、針路ヲ正北ニ定
 メ航路浮標ヲ正首ニ保チタル帆船ノ方位ハ漸次我艇尾
 ノ方向ニ移動シツ、アリタルヲ以テ其後前進ヲ射レ得、キヲ
 確信シ用意一本艇ニテ發射用意ノ后再ビ用意ノ令ヲ
 下シツ、アリノ令ヲ下シ水雷ヲ既ニ發射セントスル際急ニ帆
 船、我右舷側方ヨリ艇首ヲ横過セントスルノ状アルヲ見タルモ
 時既ニ轉舵セヨ遊クル、余地ナク著レク危険ヲ感シタル
 ヲ以テ直ニ汽機ノ全速ヲ轉テ命レ約三十秒ニシテ艇

海軍

既ニ後退ニ移^ルアリレモ當時ニ乃至四ノ風力ニ壓セラレ
馳走^レシ^テアリレ帆船ノ為艇首ヲ壓迫擦過セラレ本艇
々々自外致及固定銃射管ニ別紙附圖ノ如キ損傷ヲ受
ケレタリ

0892

帆船三室丸損害左ノ如シ

一 艀上防波板 桂共

六枚流失

一 横神左端一尺計折損

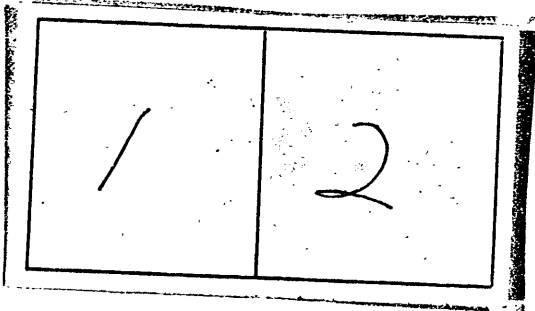
老ヶ所

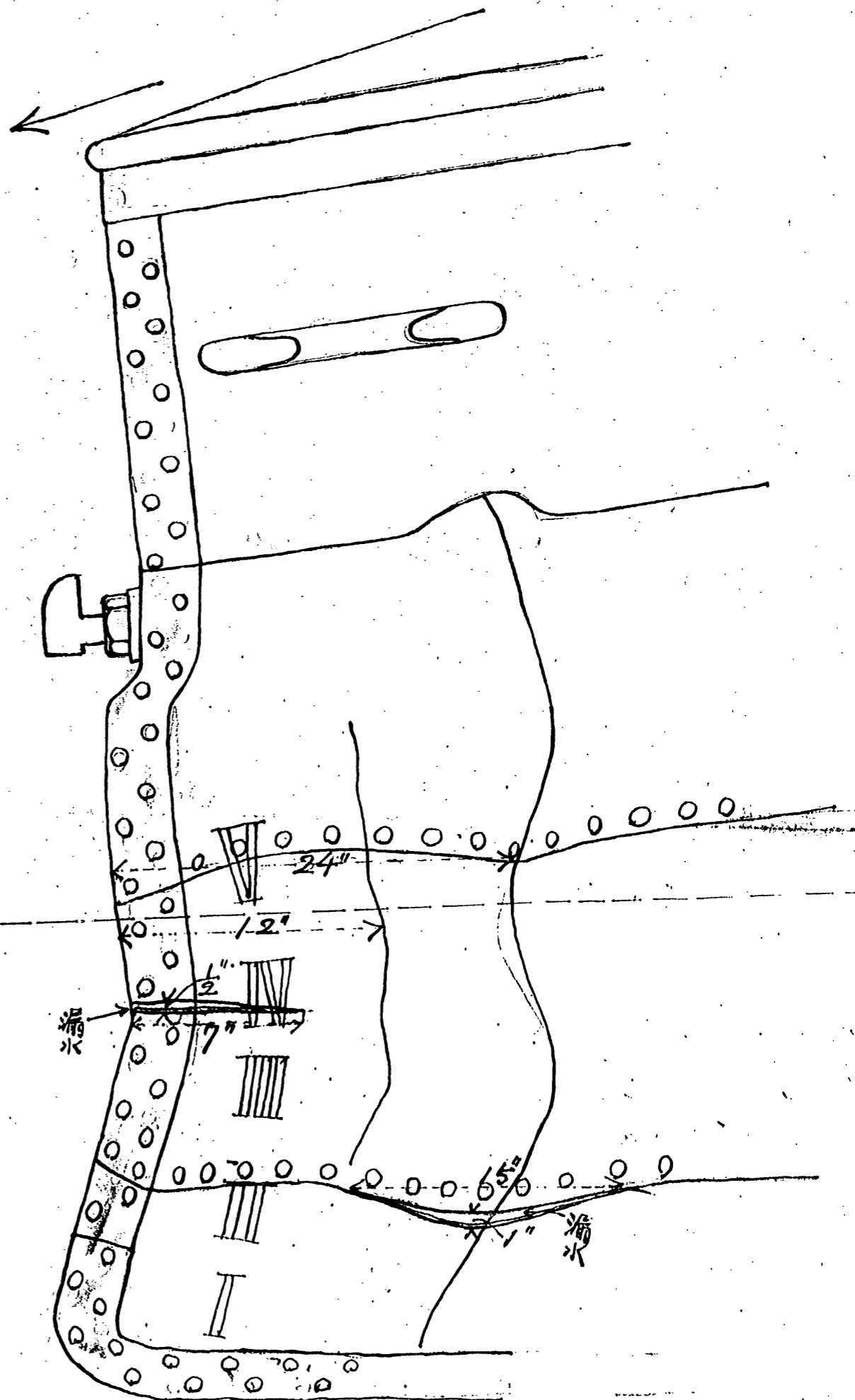
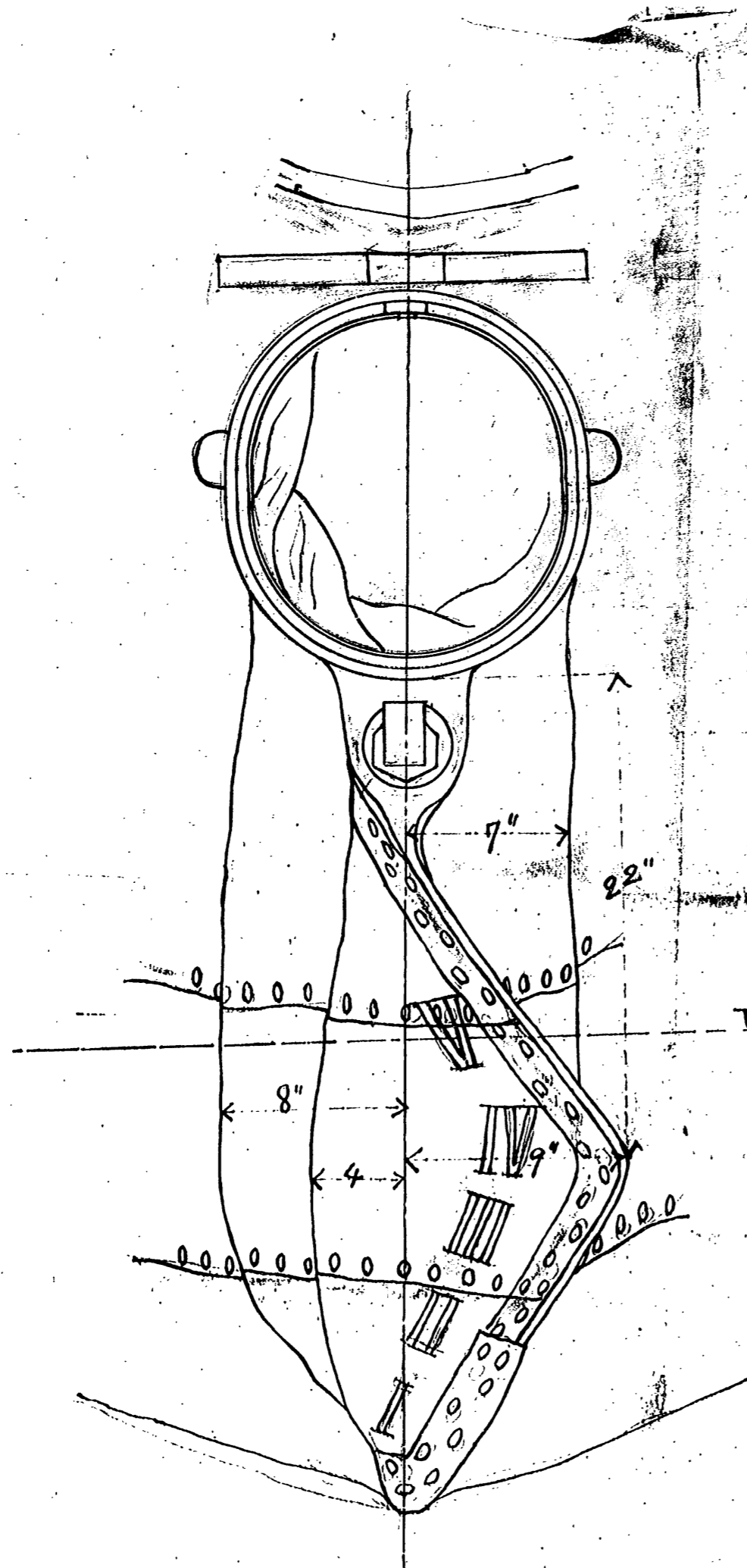
一 後檣頂約一尺折損

老ヶ所

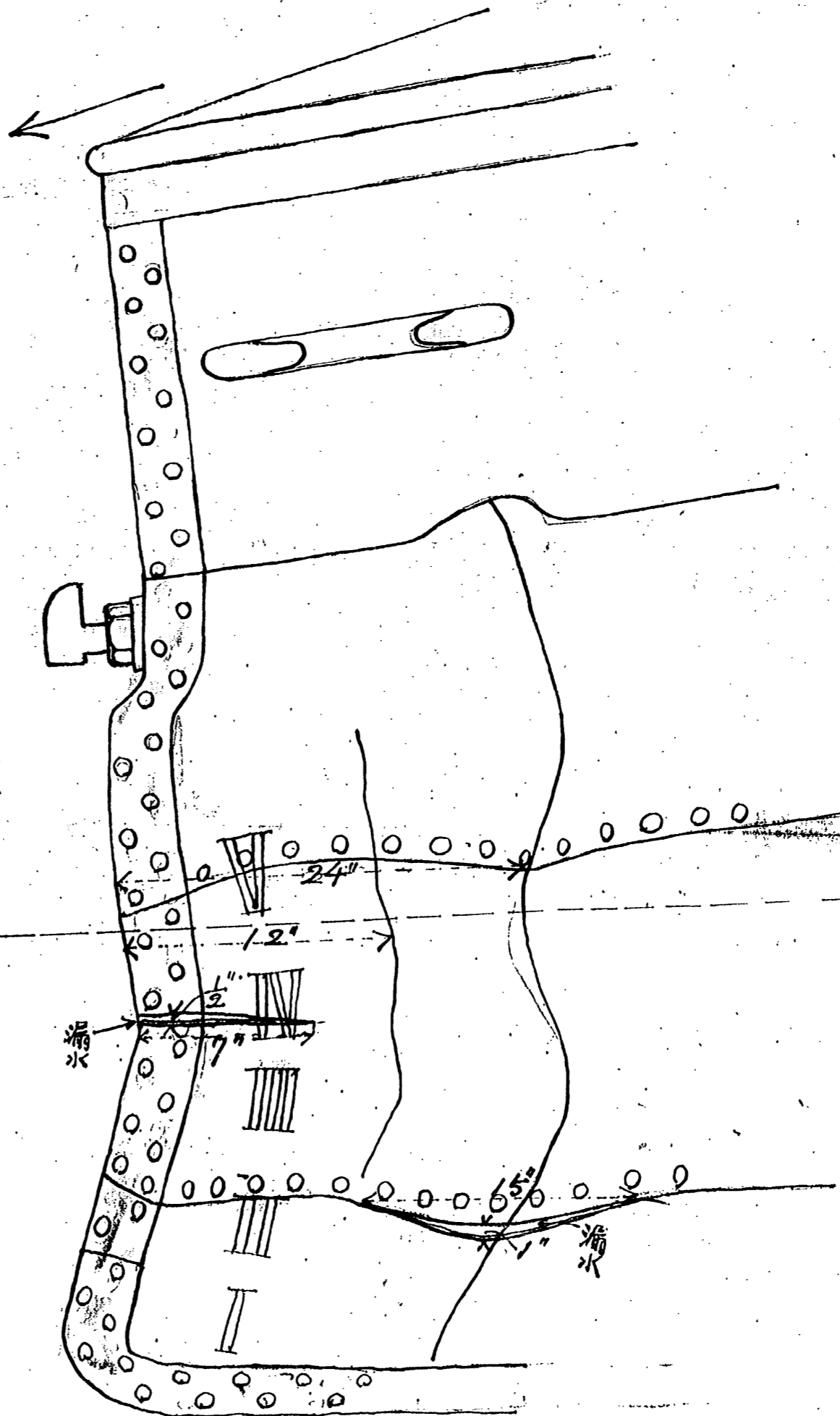
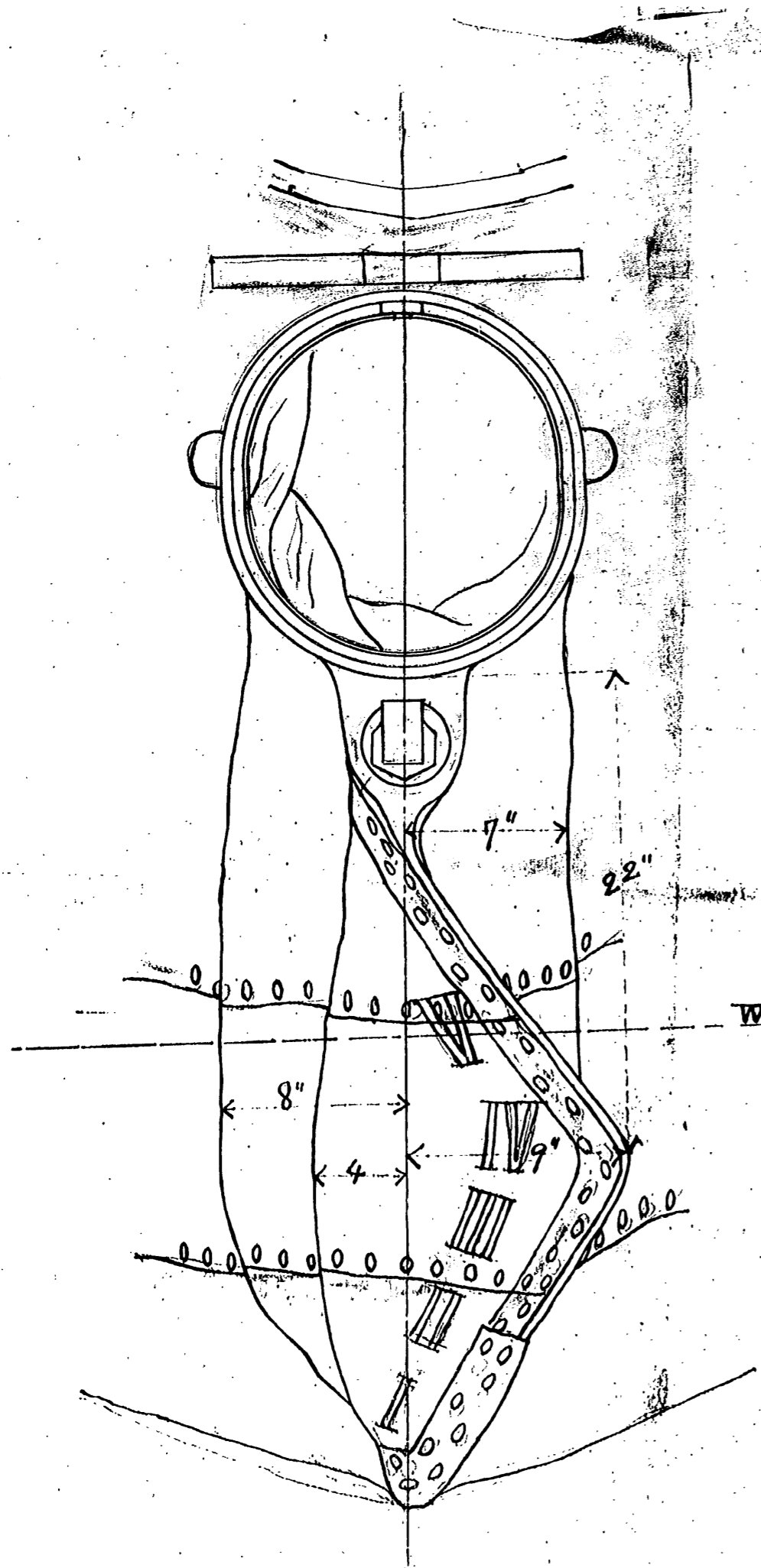
其他艀体器具ニ著シキ損傷ナシ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	



0894



0894

0895

躰田ニ尋身ニテ急キ後部共射首ノ後射準備ヲシ指リ餘
念ナリ前方ヲ見ルニ如彼右舷約四五丈ノ前方右舷用モハ
板材ガ針路ト約七十丈ノ用ナリ以テ進行セリ其時
多ク危険ナリトモ一時ノ邪魂者トシテ思フニ尚昔村用意ヲシ
指リ雨ハ奇向舷見ルニ依テ其ノ針路ヲ経続シカモ
変更ノ様子モハ其ノ依テ免ク角危険ナリト急キ點是ニテ
前部ニ至ルニスヤヤリテ室ニ入リトモ既ニ如彼ノ後進
全速ニテ其ノ其ノ瞬間ノ自後ノ随カト彼ノ進行カトノ
為ニ融衝ノ非運ニ至リテ先キ後部ノ點是ノ際

0896

彼レハ狼狽ノヲモカジニ針路ヲ變ジテ右舷ノ中興部
 ヨリ以テ後ト覺シキ如ク右舷ノ後音ヲ右舷ノ左舷ニ據過
 セシキ其瞬間ニ彼レハ右舷ノ浪際ヲ以テ下舷ノ附屬物
 ヲ破損ニ尚後捕獲シ一大斗ヲ折斷シ帆落ト爲被音過
 コシキ右舷音ヲ援テ左舷ニ幸リ右舷ノ後過ニテ返キリ按ジテ彼
 ハ右舷ノ機音ヲ危険旗全揚トシ不係書衣集トシテ未過路
 ヲ取リ且卸帆カハルノ最初ノ右舷ノ針路ヲ折斷セシトシテ
 外ヲ要スルニ彼レノヲモカジヲ取リシハ右舷ノ危険ヲ脱スル意志
 ナリニ相違ナキ又右舷ノ破損ノ程ナク高クナリト思フ後彼
 レノ言ヲ知シ依レハ果シテ最初ノ右舷ノ針路ヲ折斷セシト
 シル意志ヲ示スト云フ

第百九号水雷艇ニ乗ル者梅田伊助田

0897



本池ノ石巻ノ村改
ニ付申付見付申付



早土系

板板ノ形
七五片



四十五反

船街ノ形



0898



本船千早名君は即木更津河津行可一也六六
 地東國太島新有帆船ニシテ明徳二年
 六月廿四日付船中提督ニテ木更津ニ
 向クマシマニテ相岸ニ依ルセト航シ全
 日水雷艇亦也ナリト正東ニ向テ祝也
 風ニシテ氣ヲ在事ニ居ルニ全復ノ
 揚シ正北ニ計活ヲ更替シリ一モ
 祝也標子一也認ク一テ一也相岸
 祝也

0900

水原
南片

ト之其祝詞原標ノ位置ニ能ク
標道也七ノニ相違なきヤ

明治二十二年三月廿二日

帆取三寶丸船頭 増田作次郎

水原
南片町
寶徳堂

0901

海軍 電報 抄

供覽 ~~電~~

軍務局

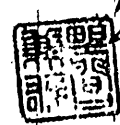
各部



各班



海軍大臣 三月十日
 大政高船會社汽船 馬公要港部司令官
 際ノ 電報 尾ノ 西方ニ 大南都 船解
 人命ニ 危害十シ 強風 引卸方
 手配中



海

軍

海軍 電報 抄

0902

電 報 送 達 紙

局 着		局 發		名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	第	あ	友 マイ
あ	午後 三時五分	後 〇時五分	三 月 生	三 三 三	
		字	日	號	局
定 指 事 記 指 記 事 記					意 注 名氏所居人信發 ハニ
ヒキオロモカタテクバ キヨウフウナレドモ ニメイニキガイト タガシエトタイジ ノセイオウニ ノサイフウキビカタ ルサクエウニエウコ エヤキセフガマ オーサカニヨセカイ					他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

0903

北(北)

大臣了 以友(智)浩

海

二二二

軍務局

人事局

軍令部

譯

(封)

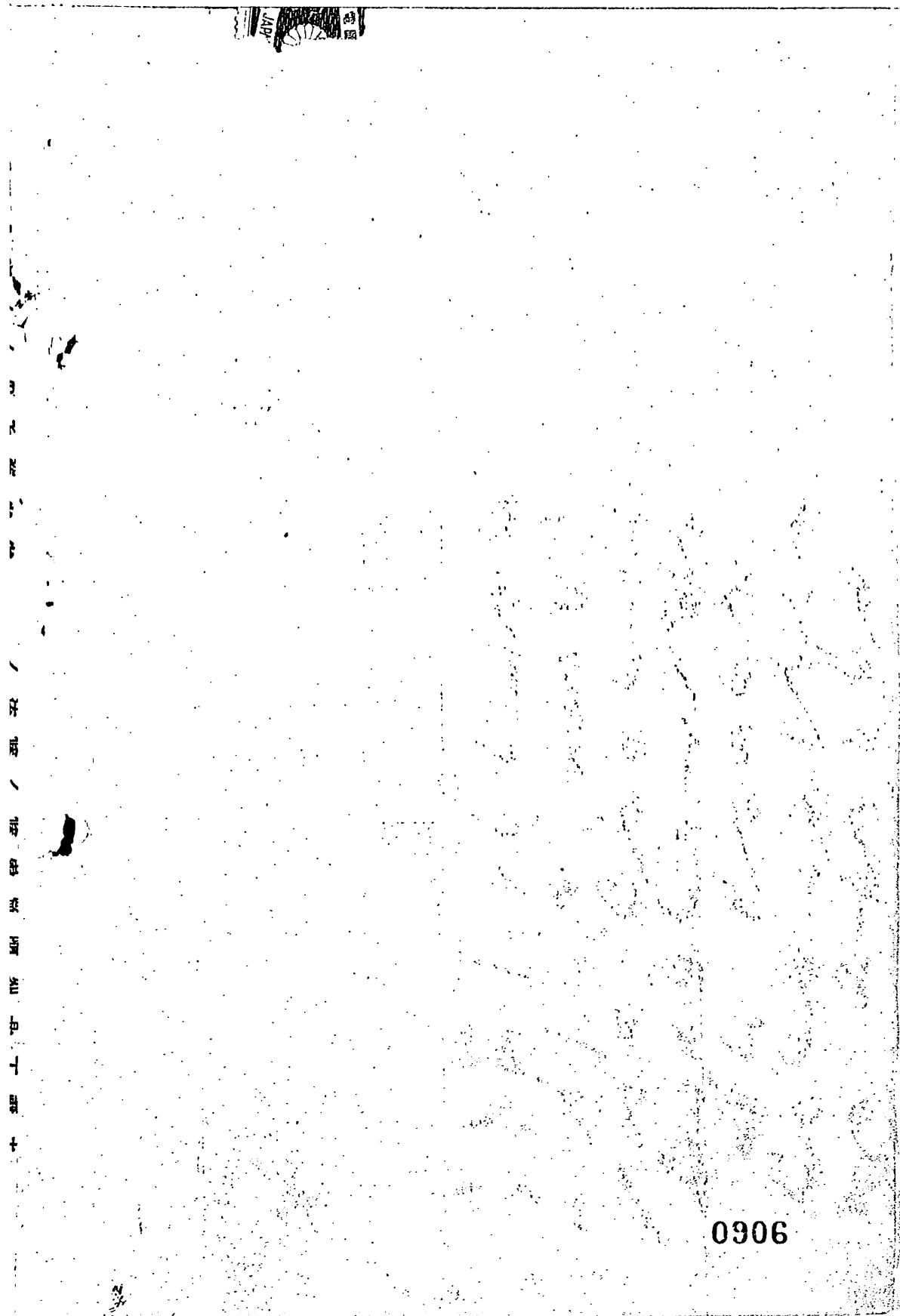
本日(四)午(浦)為(日)総(艦)作(率)出(洪)
 今(帰)星(周)ス(曳)艦(作)業(中)明(石)
 米(一)部(下)ト(破)指(重)傷(伊)集(院)
 少(佐)手(田)少(射)下(士)一(名)軽(傷)上(曹)
 一(名)下(士)三(名)重(傷)後(死)亡(卒)一(名)
 生(シ)タ(ル)に(付)同(艦)直(を)目(回)航(ヲ)
 命(シ)タ(リ)重(傷)者(概)子(單)純(骨)折
 ニ(シ)テ(向)臨(命)シ(タ)リ

各(機)隊(長)

二二二

(江口)


0904



Vertical text on the left margin, possibly a page number or title, which is mostly illegible due to the low quality of the scan.

0906

電 報 送 達 紙

局 著		局 發					名 氏 所 居 人 信 受	
當 務 者	受 信 信 午	付 受 午	第	月	日	報 局		
	時	時			號			
	分	分			號			
手 記 (Handwritten notes in Kuzushiji style)						定 指	名 氏 所 居 人 信 發 (Recipient name field)	
						事 記		
						番 號 第		
						號		
						印 附 日 局 著		

製局刷印月四年十四治明

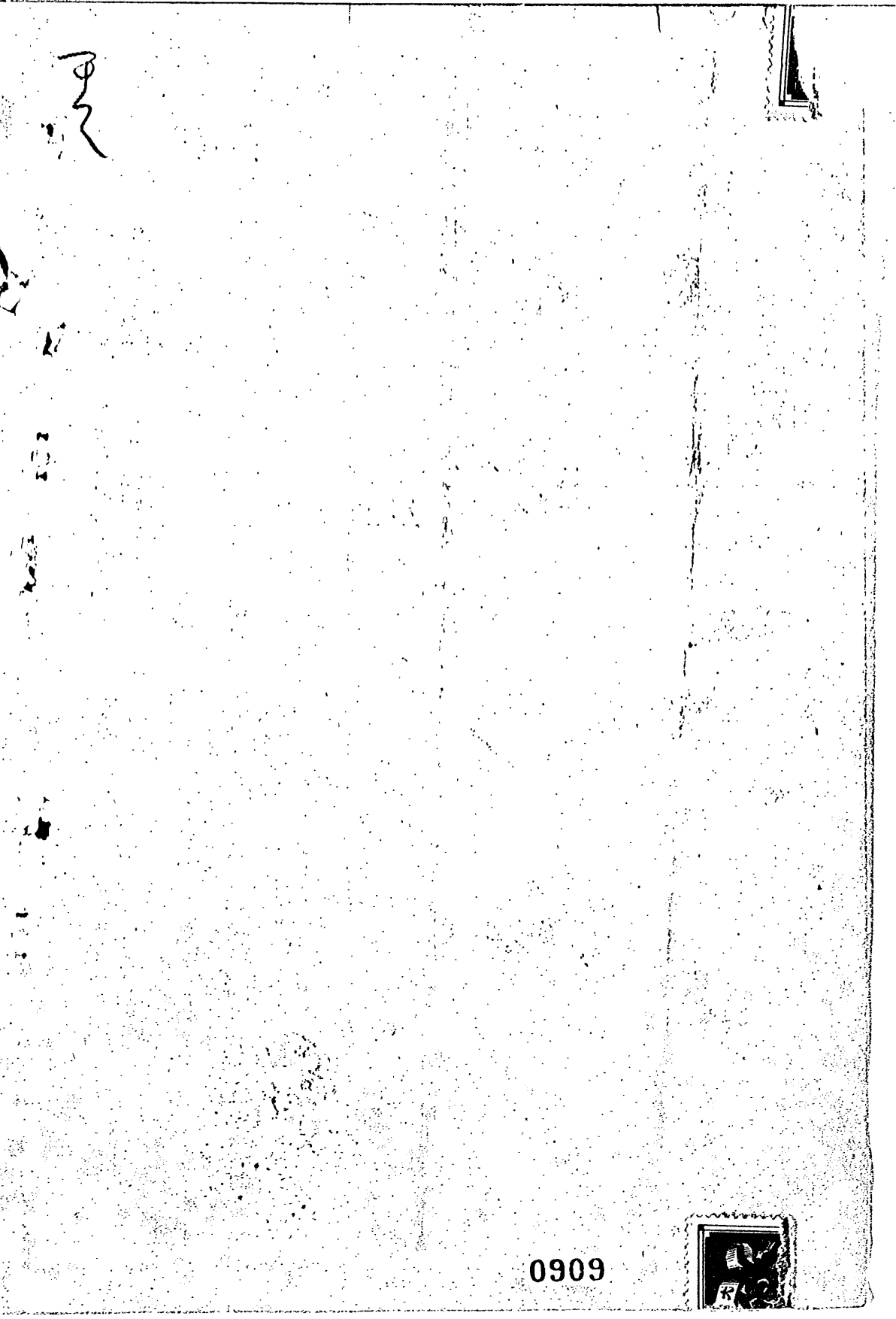
0907

電 報 送 達 紙

局 著		局 發				名 氏 所 居 人 信 受			
受 信 者	信 受 午	付 受 午	第	月	日				
時	時	分	分	字	報			局	
分	分	日	號	局	報			報	
定 指						名 氏 所 居 人 信 受			
事 記									
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 2 2 3 4 1 カ 2 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> セ ウ 1 4 イ エ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> イ セ △ △ △ ハ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> × ウ 子 ウ ウ ウ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ↑ = ウ 2 ウ ウ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> = 2 2 ウ ウ 4 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> + ↑ 2 ウ ↑ 4 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ↑ モ 2 ウ ウ = </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 2 4 2 ウ ウ ウ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> + 0 2 ウ ウ ウ </div>						著 信 番 號	意 注	名 氏 所 居 人 信 受	
第	他人へ宛たる電報の配達を受けたる者は其由を付箋に直ち之を配達する電信局所に返戻すへ決して其受取本人へ直送又は手渡すべからず								
號	著 信 局 日 附 印								

製局刷印月四年十四治明

0908



0909



丁局
本
二の
...



村橋

0910

電 報 送 達 紙

局 着		局 發					名氏所居人信受						
取扱者	受信 午後 後前	時	分	字	付受信 午後 後前	時	分	月	日	第	報	局	報
シ	シ	ル	シ	ビ	イ	ツ	イ	タ	ニ	イ	ヤ	シ	一
ハ	シ	ル	シ	カ	イ	シ	ボ	シ	イ	ダ	ケ	一	定 指
シ	シ	ル	シ	メ	イ	ハ	ス	シ	イ	シ	シ	イ	事 記
シ	シ	ル	シ	イ	シ	ハ	ス	シ	イ	シ	シ	イ	注 意
シ	シ	ル	シ	シ	ハ	ス	シ	イ	シ	シ	シ	イ	名氏所居人信受

注 意

他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符
箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ
決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

0912

日本郵政省
電信局
東京
明治三十二年
十月
七日
午後
七時
五分

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取 扱 者	受 信	信 受 午 後 前	付 午 後 前	第	報 局	報	報
		時 分	時 分	月 日			
定 指 事 記						意 注 名氏所居人信受	
カ ニ エ ズ ト リ ア が タ エ ズ ト リ ア イ キ ヨ ウ ホ ウ ク ス						他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 號シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ	

0913

海軍

明治四十一年二月廿一日

村第二艦隊參謀

村上海軍省副官殿

軍艦明石災害始末書、件

田中明石艦長提出、今編成船作業中發生セリ

災害始末書寫臺通

右尚参考迄尚送附入

(別紙寫臺通添)

終

石炭油第三〇

二〇〇

0914

寫

明治機密第二八號

明治四十年二月三日於島

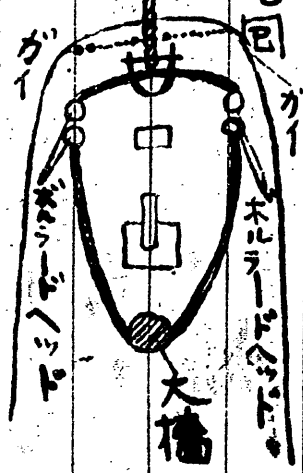
明后船長 田中盛秀

某二船隊司令官指圖伊事院五印殿

始末書

明治四十年二月二十日午後一時十五分某二船隊司令官指圖始末船演習
 十七日通信ニ依り本船ノ所夜干代田ト豫メ交渉ニ置キタルカ故從
 ヒ其準備トシテ左圖ノ如ク三時半「スチールワイヤ」ヲ大橋ヲ後
 甲板ニ「アル」ホルラー「ドヘット」ヲ經三回捲回
 シ艦下室「ハッチ」ノ後方ニ「スパーン」（中略用）
（五時スチールワイヤ）
 ヲ造リ被與艦干代田ヨリ出セル五時

別紙附圖参照



0915

上おが... 付...
方... 付...
行...
ス

「スチールワイヤ」ノ「シシブル」ヲ「アニカーシヤツクル」ニテ鎖付シ尚慮急
解放用トシテ「ガイ」ヲ取付ケ終リ準備作業完成シテ以テ「スチール
ワイヤ」監視トシテ下士卒数名ヲ配シ今ヤ或行ヲ開始セドモシ隊本艦
ハ既ニ漸流ノ為メ若シテ干代田ノ左舷艦腹ニ偏流セシ居ルハ艦腹ノ
層アリシヲ以テキ後三時七分面舵ニ微角度ノ轉航ヲ行ヒ極微速ヲ加ヘ
タル「スチールワイヤ」張力ノ為メ左舷「ポリレート」トヘツト「破碎」トシ「スチール
ワイヤ」ノ彈撓ニ休ム後部指揮監視ノ任マリスルモ官以下ハ各ノ重傷
輕傷者ヲ出スノ不幸ヲ見ルニ至リリ思フコト當時干代田モ微速前進シ居シヲ
以テ些少ノ速カラ加フルモ決シテ過大張力ヲ及ボスノ慮ナカクシモ「ポリレート」
ヘツト「材質豫想外脆弱」ニテ僅少ノ張力ニ堪ヘザリシモノナラン尚能ク
其破砕面ヲ驗シタルニ該面ニリ大ナル「ブローホール」及ビ小粒状ヲナシ実体
トナリ居ルナル個所アリ加フルモ其中央ニ當リ製索遺志時ヨリ存在セル(外
部ヲ見ヘズ)長サ約四吋中二分ノ吋ニ亘リ又鈍ノ痕跡アルヲ

海 目

0916

発見者右舷ホールドヘッド」モホ之^レ者ナクシ^テ列^レ縛^テ発^スせん^ル也
ナク

負傷者官姓名左ノ如シ

副長

海軍少佐 伊集院兼誠 (重傷)

海軍少尉 平田 昇 ()

海軍中尉 佐藤 岩吉 (軽傷)

海軍中尉 松井 吾市 ()

中川 佐太郎 ()

海軍中尉 西野 權郎 (重傷)

海軍中尉 菅 作内 善市 ()

海軍中尉 水戸 青谷 重郎 (傷死)

右始末書提出ス

別紙附圖三葉添

(終)

海軍

軍務局

明治四十二年三月十日於大仁屋

村上海軍省別官殿
上村第三艦隊参謀

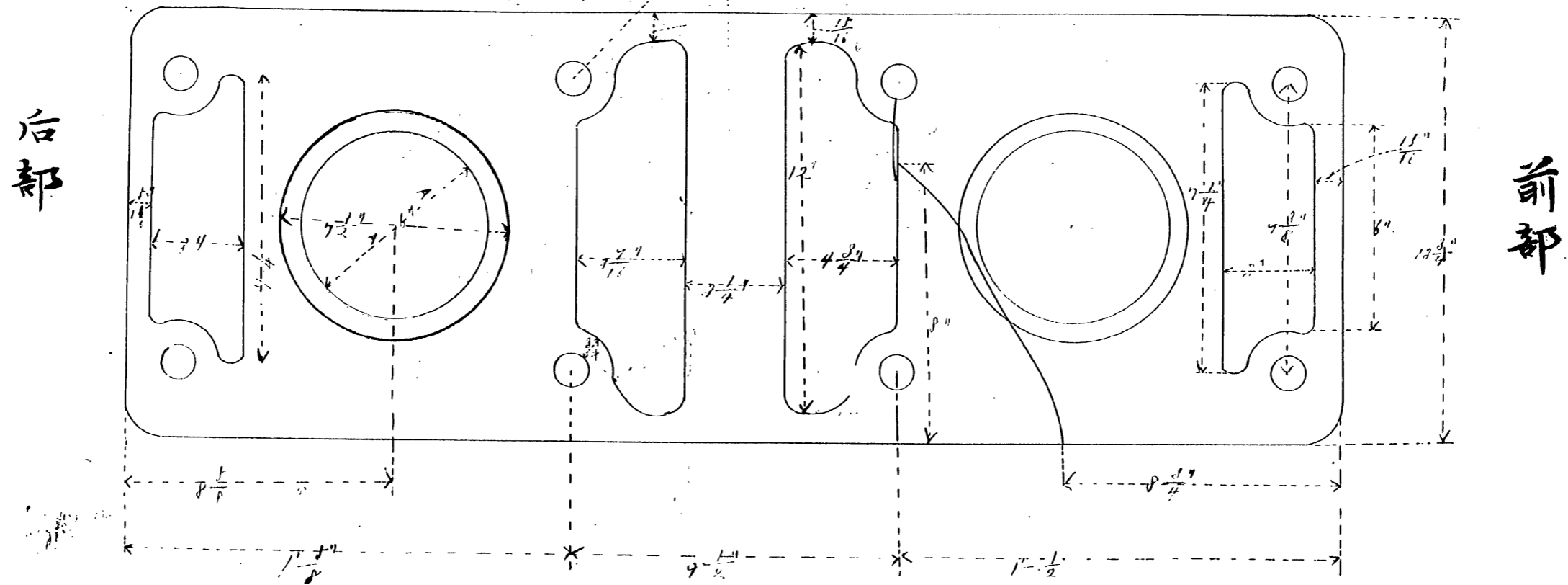
如末書訂正ノ件

某月二十日(本参考)迄ニ示送付改正後明石様迄
二六號如末書宛中、午後三時七分下、二十日午後二時
五分誤記ノ有之候事、訂正相成度
大田知久

(終)

0919

軍艦明石ボルトヘッド
裏面ヨリ見たる備



0920

附圖説明

お代田より北へ
 三ノロープがセキヤ
 の向

- 一、綱索リ三吋半ニテ左圖ノ如ク大樁ヲ後甲板ニテ「ホルト」ヘリト
- 二、大樁ニ「ケツ」フスルベシ「四本」ヲ縦ニ取リ付ク其好部ヲ古キ「コリジ」ヨレマツト「ラ」當ヲ綱索ヲ捲回シタリ
- 三、お代田ヨリ曳索リ五吋綱索ニテ「ケ」ビシ「ハ」ッテ「ノ」後方ニテ「三吋半」綱索四條ヲ「ア」レカー「ニ」ヤクル「ニ」通シ之ニ「敷」キタリ
- 四、應急解放用「カ」イ「ハ」カン「カ」ム「シ」ヤクル「ノ」後方「凡」シ「四」本「突」ル「処」ニ「五」吋綱索ニ「セ」ル「ベ」レ「ス」ト「ロ」ッ「プ」ヲ掛ケ之ニ「両」舷「ノ」「ト」ラ「ス」ボ「ー」モ「グ」チ「キ」ク「ヲ」ス「モ」ル「ラ」ウ「ニ」根「ヲ」以「テ」引「キ」集「ム」タリ
- 五、ホルトヘリトヘリト右舷ノモノハ被横シ其頭部一併右舷側海中ニ「飛」散シ一併甲板ニ「セ」塔「チ」タリ（第二圖）

「ホルト」ヘリト「右」舷「ノ」モノ「ハ」被「横」シ「其」頭「部」一「併」右「舷」側「海」中「ニ」

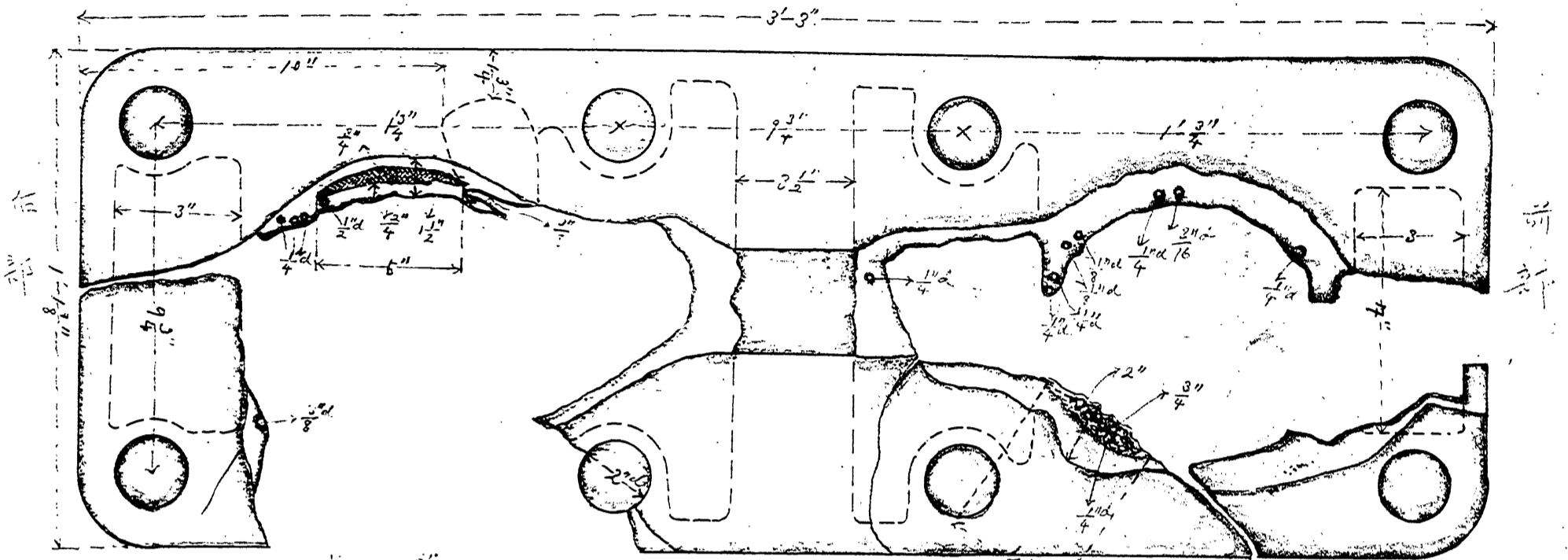
Table with 13 empty vertical columns and a header row. The header contains the characters '南洋' (Nanyang) and '年表' (nenpō) written vertically on the right side.

0922

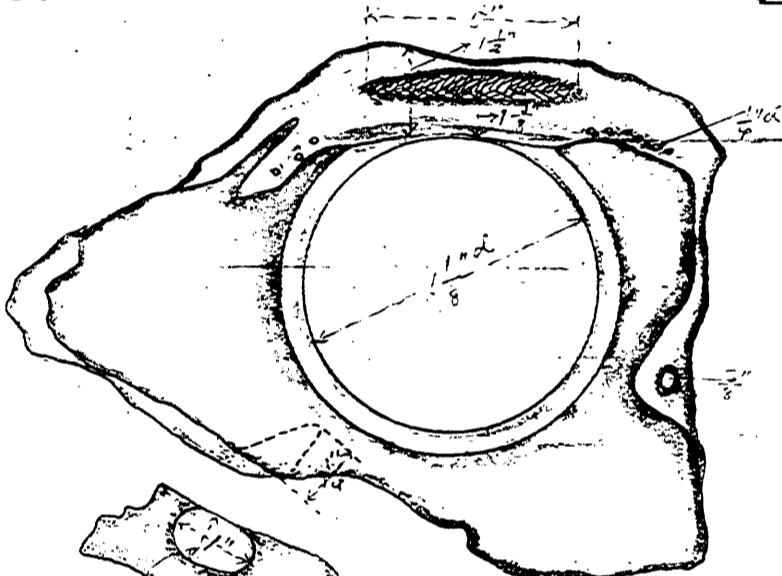
軍艦明石破損セル
ボルロードヘッド

明治四十一年二月二十日

0923

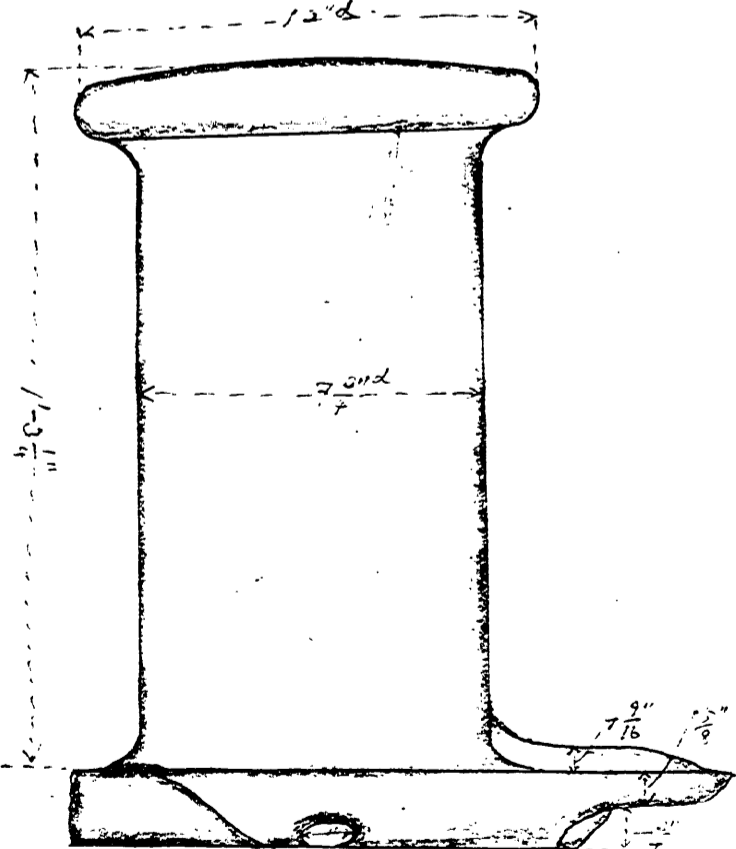


平面図

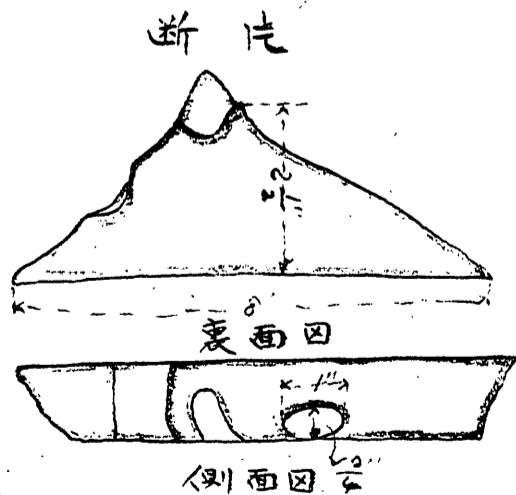


表面図

側面図



側面図



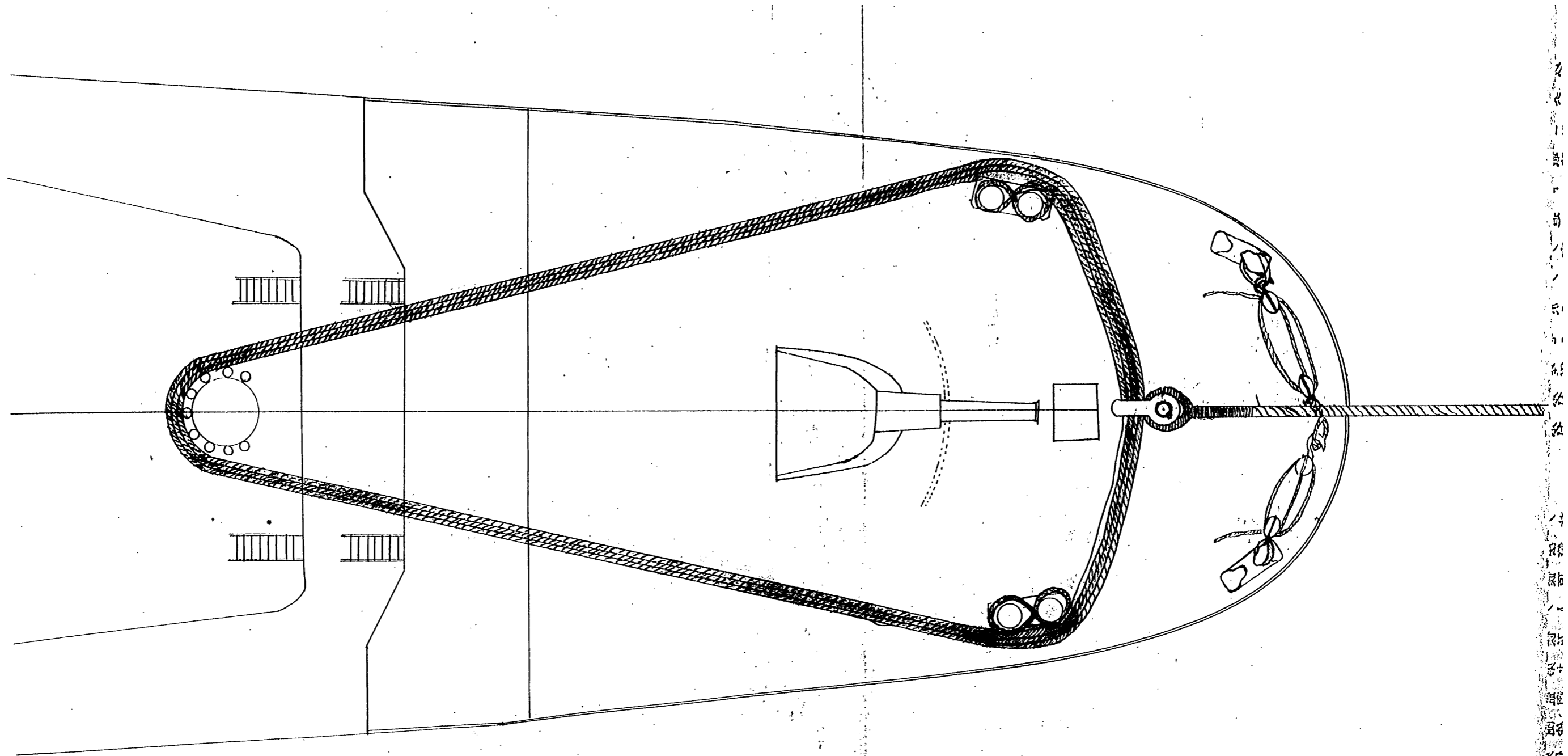
断片

表面図

側面図



側方断面図



矢
の
形
式
の
一
種
に
お
け
る
矢
の
形
式
の
一
種
に
お
け
る
矢
の
形
式
の
一
種
に
お
け
る

0924

新報 移 爲

副官

榎

吉

參事官

年

月

日起案

二月廿七日

發付

榎

大臣

次官

榎

榎

電報案

明治四十一年二月二十二日

海軍大臣

海軍

0925

第二龍塚山古墳記

江 戸

曳綱作善業申ボレラードへつド破換
將校以公數名、至重傷者ヲ生シ内
一名死セリト、報ニ據シ半上感、至
此一ス死者、半上感ニ對シ満腔、曰
侍シ善業身侍者ト云リテ、折角カ若
半上ニ由後リ折シ右可然侍モ生アリ

0926



電

電

海

軍

軍

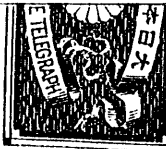
大臣

中ニ新隊ヲ令セ及

明石公府死傷者ニ對シ御懇篤
電報ヲ辱ラシ感佩ニ堪ハス所
厚後ノ趣失ク傳達召シタリ一
日ニ代リ茲ニ深謝ノ素ヲ表ス

0927

紙 達 送



局 著		局 發		名 氏 所 居 人 信 受	
受 信	信 受	付 受	第	報	カ イ シ シ シ
當 務 者	午 十 時	午 十 時	五	局	
	分	分	日	號	
	分	分	二 月 二 日		
定 指 事 記 (Large handwritten characters)				意 注 他人へ宛たる電報の配達を受けたる者は其由を存案し直ちに之を配達したる電信局所に返戻すべし決して其受取本天へ直送し又は手渡すべからず	
				名 氏 所 居 人 信 發 (Large handwritten characters)	
				附 日 局 著 	

製局刷印月四年十四

0928



0929

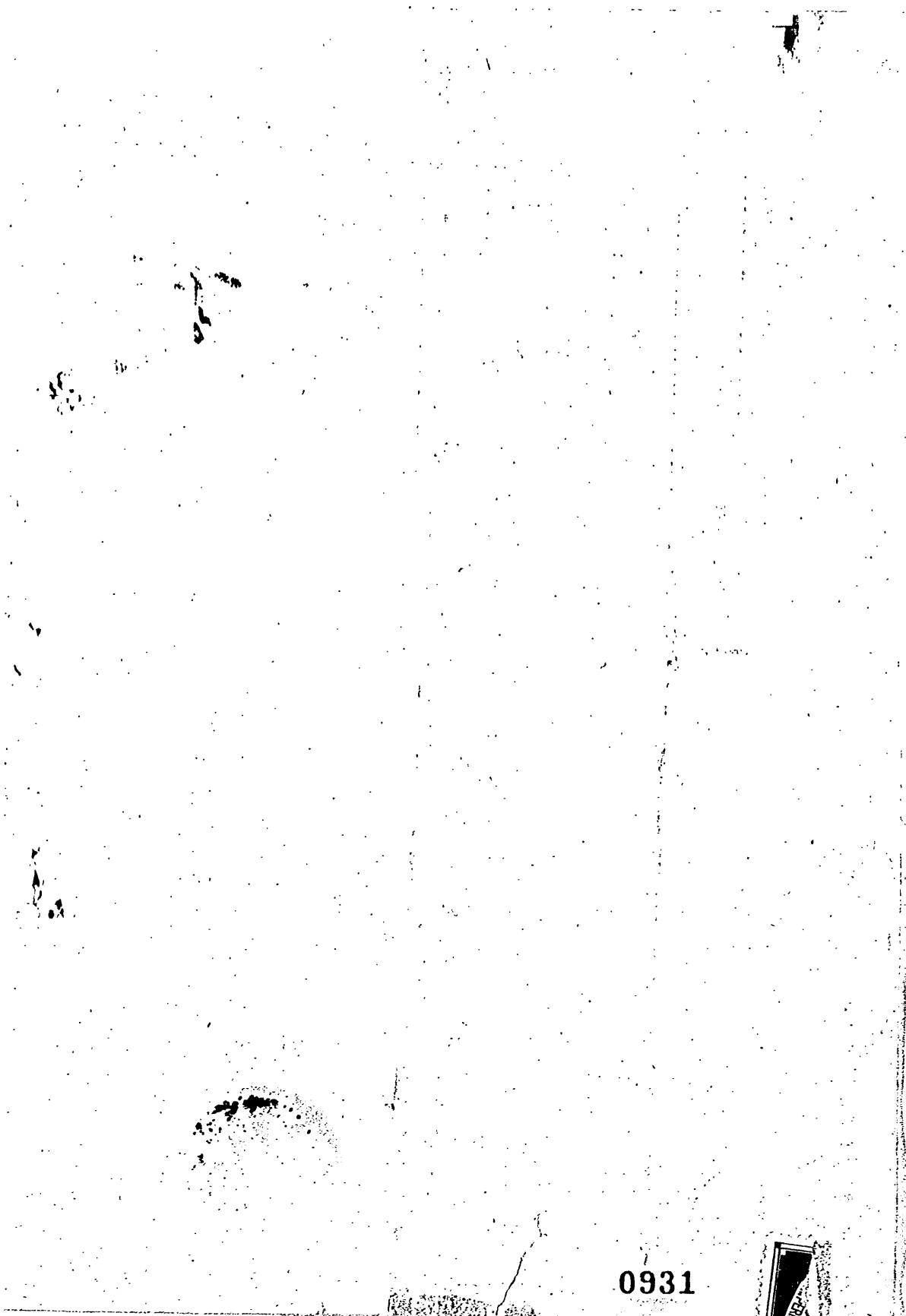
電報送達紙

局	著	局			發	受信人居所氏名		
當 務 者	信 委 午	信 委 午	第	第	報			
	時	時	月	日	局			
	分	分	號	號	報			
定指						受信人居所氏名		
事記						受信人居所氏名		
番號						注意		
第						他人宛たる電報の配達を受けたる者は其由を付箋に直ちに之を配達したる電信局所に返戻すべし決して其受取本人へ直接又は手渡すべからず		
號						著局日附印		

イ
リ
ヒ
コ
ウ
ス
ニ
ト
ウ
カ

製局刷印月四年十四治明

0930



0931



大臣

聖

次

軍

無

改 第三部 第四部

軍令部

本...

電

大 目 其 後 右 舷 右 部 二 重

横 鉦 長 友

水 圍 難 十 三 出 見 込 立 夕 不 朝 来 下 風 波 強 潜 壁 土 處 水 量 八 見 不 漏 水 量 八 部 二 重

海

軍

三

3-6

3-97

0932

0934

副官 村松



参事官

渡月信

四十二年三月十三日起案

大臣

次官



直務局長



司員



要

明治四十二年三月十四日

官

官房第一〇〇八號

母

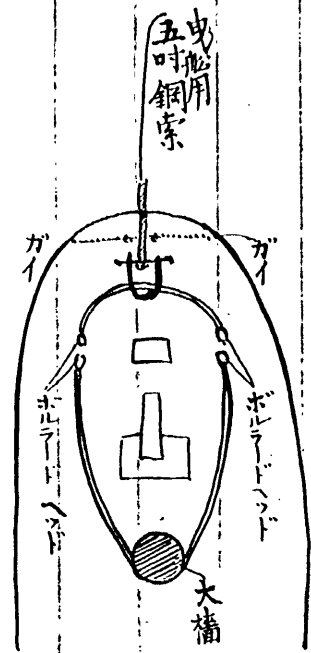
官

0935

高野山に於ける海軍の遺蹟

軍船明石の指針を以て其の遺蹟

明治二十二年三月二十日、第二艦隊の明石に於ける
 形を以てし、第二艦隊の明石に於ける、
 船の遺蹟、一時、其の遺蹟、
 船の遺蹟、一時、其の遺蹟、



0936

三寸半鋼索ヲ大構ヨリ後甲板上方へ引込ラド
 ハツドシテ三回捲回シ船長室ハツチノ後方ニホリ
 シヨ告リ被索船千代田ヨリ出せん五寸鋼索ノハツチ
 レヲアガリシヤウシニシテ鎖住シ尚應急解放用ト
 シテアガリシヲ取リ替ヘテ新リ進路作業完成シヨウ
 千代田索監視トシテ下士卒等ノ配シテヤウ行
 シテ開始セシトセシ際現在既朝流ノ合ハ若ク千
 代田ノ左舷船腹ニ偏流セシヨリ危突ノ虞アリシ
 ヲステキ午後二時五十二分面舵ニ鋭角ナリ轉舵ヲ行
 ヒ極微ノ制力ヲ加ヘテ鋼索張力ノ弱ク左舷ヲ出
 ルヲヘド破砕セシ鋼索ノ彈力ニ依リ各部皆揮
 監視ノ任コサリ左記ハ名ノ重傷輕傷者アリ
 ノ不幸ヲ具ヘテ至リ

重傷 左脚切骨

副長海軍中佐 田原 兼誠

重傷 左脚切骨

海軍少尉 平田 貞一

軽傷 擦過傷

海軍上等曹長 橋本 吉

軽傷 左腕切骨
右腕切骨

海軍上等曹長 中川 隆

軽傷 左腕切骨
右腕切骨

海軍上等曹長 松井 吾市

重傷 左脚切骨

海軍三等曹長 西村 権吉

軽傷 擦過傷

海軍三等曹長 内海 嘉平

死亡 擦過傷

海軍曹長 長青 谷善三

右肩 擦過傷 以上 右腕 切骨

(丸)